

平成 26 年 10 月 30 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL054-250-8750

平成 26 年 10～12 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～『やや上昇』が 2 業種、『横ばい』が 18 業種～

現在（平成 26 年 7～9 月期）の業況

県内産業（主要 20 業種）の現在（平成 26 年 7～9 月期）の業況は、『順調』が「工作機械」1 業種、『普通』が「食品・飲料」など 5 業種、『低調』が「製茶」など 13 業種、『不調』が「二輪車部品」1 業種となった。

平成 26 年 10～12 月期の見通し

平成 26 年 10～12 月期の景気見通しは、総じて横ばい状態が続くとみられる。消費税引上げによる店頭価格の上昇と円安による製品・原材料価格の上昇が、消費者・ユーザーの消費抑制姿勢を招いており、持ち直しのテンポは鈍い状況にある。労働需給が引き締まり、一部では人手不足となっているものの、勤労者所得の増加につながっておらず、このまま個人消費の落ち込みが長引くと、景気の先行きに影を落とすことになる。

担当：出版担当 望月 毅

消費税引上げと円安が影響し、景気回復に遅れ

県内産業の景気は、総じて横ばい状態が続いている。消費税引上げによる店頭価格の上昇と円安による製品・原材料価格の上昇が、消費者・ユーザーの消費抑制姿勢を招いており、持ち直しのテンポは鈍い状況にある。労働需給が引き締まり、一部では人手不足となっているものの、勤労者所得の増加につながっておらず、このまま個人消費の落ち込みが長引くと、景気の先行きに影を落とすことになる。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要 20 業種）の現在（平成 26 年 7 ～ 9 月期）の業況は、『順調』が「工作機械」1 業種、『普通』が「食品・飲料」など 5 業種、『低調』が「製茶」など 13 業種、『不調』が「二輪車部品」1 業種となった。

前回（平成 26 年 6 月）調査との比較では、内需が堅調だった「食品・飲料」が『低調』から『普通』に 1 ランク上昇した。一方、消費税増税前の駆け込み需要の反動減と相続税対策の着工が一段落したとみられる「住宅」が、『普通』から『低調』に 1 ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成 26 年 10 ～ 12 月期の景気見通しは、主要 20 業種中、『やや上昇』が 2 業種、『横ばい』が 18 業種となった。

『やや上昇』と見込まれるのは、大手金融機関のシステム統合など大型案件の需要が見込まれる「情報サービス」が『普通』から『やや上昇』、景気回復を受け年末に向けて派遣需要が高まるとみられる「人材派遣」が『低調』から『やや上昇』の見通し。

『横ばい』の 18 業種は、設備投資マインドの回復が続く「工作機械」が『順調』のまま『横ばい』、価格下押し圧力があるものの需要が堅調な「食品・飲料」、高付加価値品の増加が見込まれる「家庭紙」、新製品の投入で一定の需要が期待される「民生用電器部品」、駅ビルや商業施設の改築など大規模案件の着工が予定されている「建設」の 4 業種が、『普通』のまま『横ばい』の見通し。

『低調』が続き『横ばい』となるのは 12 業種で、年末・年始の贈答需要に盛り上がりが見えぬ「製茶」、原燃料費の高騰を十分に吸収できない「産業用紙」、駆け込み需要の反動減が続く「自動車部品」、「自動車販売」、「住宅」、「家電量販店」、消費者の節約志向から顧客争奪戦の激化が予想される「大型小売店」、「食品スーパー」、荷動きが前年並みにとどまる「運輸・倉庫」、来店客数の減少傾向が続く「外食」、可処分所得の減少で付帯消費の減少が懸念される「観光・レジャー」、案件獲得のレート競争激化から収益面で厳しさを増す「リース」がこれに当たる。また、完成車メーカーの海外調達率の引上げにより厳しい状況が続くことから、「二輪車部品」は、『不調』のまま『横ばい』の見込み。

なお、半期調査業種（2 業種）では、コール天の先の見通しが立ちにくい「繊維」は『低調』が続き『横ばい』、需要後退で荷動きが低調な「製材」は『普通』から『やや下降』の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成23年	平成24年					平成25年				平成26年		
四 半 期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)	
対象月(○は調査月)		10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	
業界景気の『現況』	(業 種 数)	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		順調 ○	1	1	1	0	0	0	1	2	4	5	1	1
		普通 ◐	3	4	4	4	3	2	1	3	6	7	5	5
		低調 ☁	12	10	11	12	15	16	17	14	9	6	13	13
		不調 ☂	4	5	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値		2.05	2.05	2.10	2.00	2.05	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30
	好調：5													
	順調：4													
	普通：3													
	低調：2													
不調：1														
業界景気の『見通し』	(業 種 数)	上 昇 ↗	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		やや上昇 ↗	1	2	0	0	1	1	2	2	5	0	1	2
		横 ば い →	18	16	17	16	19	18	17	17	15	12	19	18
		やや下降 ↘	0	2	3	4	0	1	1	0	0	4	0	0
		下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（9月調査であれば7～9月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（9月調査であれば10～12月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成26年9月初旬

回答企業…県内主要20業種（154社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成26年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	調査項目	業界景気の現況	業界景気の見通し	静岡県内主要産業の見通し									
				生産量 (前7ヶ月期 対比伸び率)	売上高 (前7ヶ月期 対比伸び率)	生産量 (前年同月比 伸び率)	売上高 (前年同月比 伸び率)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前7ヶ月期対比)	製品価格の動向 (前7ヶ月期対比)	資金繰り
製茶		☁→	—	—	—	→	○	供給超過	過多	→	→	普通	—
食品・飲料		⊙→	→	→	→	→	○	均衡	適正	↗	→	普通	0.5～1.0
家庭紙		⊙→	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.0
産業用紙		☁→	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.0
工作機械		○→	→	→	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	普通	2.0～6.5
民生用電器部品		⊙→	↘	↘	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	普通	0.3～3.0
自動車部品		☁→	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	普通	0.1～1.5
二輪車部品		☂→	↗	↗	→	→	◇	均衡	適正	↗	→	普通	1.0～3.0
建設		⊙→	—	↘	—	↗	◎	均衡	適正	↗	→	普通	3.0～9.0
住宅		☁→	→	→	—	↘	◎	供給超過	適正	→	→	普通	1.0～6.0
大型小売店		☁→	→	→	↗	↗	—	供給超過	過正	→	→	普通	—
食品スーパー		☁→	→	→	→	↗	—	供給超過	適正	→	→	普通	—
自動車販売		☁→	→	→	↘	↘	—	供給超過	適正	→	→	普通	—
家電量販店		☁→	→	→	→	↘	—	均衡	適正	→	→	普通	—
運輸・倉庫		☁→	→	→	→	→	○	均衡	—	↗	→	普通	—
情報サービス		⊙↗	→	↗	→	↗	◎	需要超過	—	↗	→	普通	—
外食		☁→	→	→	→	→	—	均衡	—	↗	→	普通	—
観光・レジャー		☁→	→	→	↘	→	—	供給超過	—	→	→	普通	—
リース		☁→	→	→	↗	↗	—	—	—	—	—	普通	—
人材派遣		☁↗	→	↗	→	↗	○	需要超過	—	→	→	普通	—
〈特別調査 平成26年10月～平成27年3月期 半期見通し〉													
繊維		☁→	↗	↗	→	→	◇	均衡	適正	↗	→	普通	0.5～1.0
製材		⊙↘	→	→	↘	↘	○	供給超過	適正	→	↘	普通	—

表の見方と注意

業界景気の現況	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準	資金繰り
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少	非常に余裕
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少	余裕
普通 ⊙	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正	普通
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多	逼迫
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多	非常に逼迫

(注) 特別調査(繊維、製材)は半期ベース(4～9月期の現状と10～3月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査対象企業…2業種の企業6社。

主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	緑茶の需要期だが、年末年始の贈答需要は期待薄か
製茶	  	(現況)・二番茶の生産は低調に終わった。前年の繰越在庫が多い中、相場は空前の低価格で推移し、生産を中止する工場も散見された。一方、製茶問屋の売上は、家庭向けは堅調だったが、夏季贈答は不振が続く、前年程度にとどまった。 (見通し)・10～12月の製茶問屋の売上は、厳しい状況が続くとみられる。需要期を迎えるが、ギフト離れの傾向に歯止めの兆しなく、年末・年始の贈答需要は盛り上がり欠ける見通し。秋冬番茶については、ドリンク需要の底堅さから例年並みの相場展開となりそう。

業種	業界天気	輸入ツナ缶の増加で、単価の低下を懸念
食品・飲料	  	(現況)・7～9月の食料缶生産量は、内需が下支えし、前年同水準となった模様。ツナ缶は、7～8月の輸入量が少なく、県内産製品の価格の落ち込みはなかった。一方、飲料缶類の生産量は、夏場の天候不順で前年を▲5%程度下回った。 (見通し)・10～12月の食料缶生産量は、前年並みで推移するとみられる。ツナ缶は、タイからの輸入量が増加に転じるとみられており、県内産製品に対しては価格の下押し圧力が高まる見込み。飲料缶は、低水準だった前年を+5%ほど上回って推移する見通し。

業種	業界天気	再生トイレ紙は製品の多様化が進む
家庭紙	  	(現況)・7～9月の家庭紙の生産量は、前年並みとなった模様。夏場の不需要期で荷動きは低調だったが、値崩れは起きていない。一方、原料古紙は供給が減少しており、電気・ガス料金の高騰、輸送費や薬品なども含めてコストは増加している。 (見通し)・10～12月の家庭紙生産量は、前年並みとなる見通し。トイレ紙は、紙幅を狭めたりロール長を短くした低価格品が増える一方で、肌触りやデザイン、香りなどにこだわった高付加価値品も増えるなど、製品の多様化が進む。また低価格品では、円安にもかかわらず輸入品の増加が懸念される。

業種	業界天気	段原紙の値上げ交渉が進展しても、値上げは小幅か
産業用紙	  	(現況)・産業用紙の生産量は、前年をやや下回った。段原紙は、天候不順で飲料向けや青果物向けなどが伸び悩んだ。白板紙は、白ボールがやや苦戦するもマニラボールなどが伸び、全体では横ばい程度で推移した。 (見通し)・10～12月の産業用紙の生産量は、前年並みの見通し。青果物向けや加工食品向けなどで、平年並みの需要が見込まれる。なお、膠着していた段原紙の価格交渉が進展しそうだが、値上げは小幅にとどまり、原燃料費の高騰を十分に吸収するには至らない模様。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☁ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	設備投資マインドの回復で、前年実績は上回る見通し
工作機械	○ → ○	(現 況)・全国および県内の受注額は、前年実績を+30%程度上回って推移した。外需では、欧州で回復していることに加えアジア向けが好調で、内需についても、自動車向けの伸びにより前年を上回った。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年実績を+10%程度上回る見通し。内需は、設備投資マインドの回復に加え、ものづくり補助金を活用した発注が下支えするとみられる。一方、外需も、メインのアジア市場で堅調に推移する見込み。円安も輸出には追い風となる見通し。

業種	業界天気	高水準だった前年の反動で、出荷台数は前年を下回る見込み
民生用電器部品	● → ●	(現 況)・家庭用エアコンの出荷台数は、天候不順で需要が低迷し、前年を▲5%程度下回った模様。冷蔵庫も、駆け込み需要の反動減が続き、前年を割り込んで推移した。これに伴い、部品メーカーの受注量も、前年を下回ったとみられる。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、暖房性能を高めた新製品の投入により北日本で一定の需要が見込まれるものの、消費増税前の駆け込み需要が拡大した前年実績を確保するのは困難とみられる。冷蔵庫の出荷台数も前年をやや下回る見通しで、部品メーカーの受注量は前年を下回って推移する見込み。

業種	業界天気	駆け込み需要の反動減が続き、生産台数は前年を下回る
自動車部品	☁ → ☁	(現 況)・国内の自動車生産台数は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減が長引いていることから内需が振るわず、前年を▲5%程度下回った模様。これに伴い、部品メーカーの出荷高も前年を下回って推移した。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。駆け込み需要の反動減が続く内需に加え、外需も、完成車メーカーの海外現地生産化の進展で輸出が期待できず、前年実績を上回することは難しい。部品メーカーの受注量も、前年を下回って推移することが予想される。

業種	業界天気	海外部品との競合は続くも前年実績確保か
二輪車部品	☂ → ☂	(現 況)・7～9月の全国完成車生産台数は、前年実績を+5%ほど上回ったとみられる。国内市場は好調だった前年を若干下回ったが、海外市場がけん引した。県内部品メーカーの生産量は、海外製品との競合で前年水準にとどまった模様。 (見通し)・10～12月の全国完成車生産台数は、北米向けの輸出が好調と見込まれることから、前年を若干上回る見通し。部品メーカーの県内生産は、完成車メーカーの海外調達率の引上げにより厳しい状況が続くものの、来春モデル向け需要の伸びが期待され、全体では前年実績を確保することができそう。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共は先送り工事の発注に期待、民間は大型案件が着工予定
建設	  	(現 況)・公共工事契約額は、前年を▲1割程度下回った模様。上半期の発注率が目標の75%に届かなかったとみられる県や、大型案件が少なかった国の落ち込みが響いた。民間の工事費予定額は、製造業の設備投資が少なく、前年を下回った模様。 (見通し)・公共工事契約額は、前年をやや上回る見通し。9月補正予算の公共事業費は小規模にとどまったが、上半期に消化しきれず先送りとなった工事の発注が見込まれる。民間の工事費予定額は、駅ビルや商業施設の改築といった大規模案件の着工が予定されており、前年を上回る見通し。

業種	業界天気	駆け込み需要の反動減が当面続く見込み
住宅	  	(現 況)・新設住宅着工戸数は、前年を▲2割程度下回った模様。消費税増税前の駆け込み需要の反動減が続く持家が大きく減少したほか、相続税対策の着工が一段落したとみられる貸家やパワービルダーによる大量供給が続いた分譲も落ち込んだ。 (見通し)・新設住宅着工戸数は、前年を▲1割程度下回る見通し。分譲は県東部で大型マンションの着工が予定されており持ち直しが期待されるが、持家は駆け込み需要の反動減が続くとみられ、貸家も供給過剰感から苦戦を強いられそうで、全体としては低調に推移する見込み。

業種	業界天気	所得環境の改善に伴う年末商戦の盛り上がり期待
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を▲3%程度下回った模様。百貨店は、梅雨明けの遅れや台風による天候不順の影響で、主力の夏物衣料が低調だった。総合スーパーも季節商材の動きが鈍く、前年を下回ったとみられる。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。百貨店は、一部富裕層の所得環境の改善に伴い高額品の売上が回復しつつあり、年末商戦の盛り上がり期待がかかる。総合スーパーは、例年よりも秋の到来が早まったことで、秋冬物の衣料品や鍋関連の食料品が売上を伸ばしそう。

業種	業界天気	野菜や畜産物の相場高が売上の押し上げ要因に
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年を+2%程度上回った模様。台風などの天候不順で野菜が品薄となり価格が上がったことに加え、畜産物の相場高が続いたことで、単価が上昇して売上を下支えした。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。当面続くとみられる農畜産物の相場高に加え、円安の進行による輸入品の値上げが相まって、売上の押し上げ要因になるとみられる。一方で、消費者の節約志向も根強く、顧客争奪戦が激化しそう。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ■ 低調 ☁ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	新型車の発売やモデルチェンジによる需要喚起に期待
自動車販売	  	(現 況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲1割強下回った。夏のボーナス商戦が振るわなかった上、消費税増税前の受注残による販売の下支えもなくなり、登録車、軽自動車ともに低調に推移した。 (見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲1割程度下回る見通し。消費税増税前の駆け込み需要が顕在化し始めた昨年の反動もあり、減少は避けられないとみられる。こうした中、年末にかけて新型車の発売や人気車種のモデルチェンジが予定されており、巻き返しに注目が集まる。

業種	業界天気	駆け込み需要の反動で、前年実績をやや下回る見通し
家電量販店	  	(現 況)・薄型テレビの販売額は、大画面モデルのラインアップ拡充を受けて堅調に推移したほか、掃除機も高性能製品への買い替えで好調だった。しかし、エアコンの販売額が天候不順で前年を割り込み、家電販売額全体も前年をやや下回った。 (見通し)・薄型テレビの販売額は、4Kテレビや大画面モデルへの買い替え需要が拡大する見込みのほか、録画機も前年を上回る見通し。一方、エアコンや冷蔵庫といった生活家電の販売額は、駆け込み需要が拡大した前年の水準には届かないとみられ、家電販売額全体も前年をやや下回って推移する見込み。

業種	業界天気	収益面では厳しさ残るも、一部で運賃引き上げが進む見込み
運輸・倉庫	  	(現 況)・トラック輸送量は、全体では広く荷動きがみられたことから、前年実績を確保した模様。同様に、普通倉庫の入出庫高も、天候不順で飲料は低調だったが、機械関連でカバーして前年水準並みで推移した。 (見通し)・トラック輸送量は、機械関連をはじめ全般的に荷動きが見込めることから、前年並みは確保する見通し。収益面は、燃料高騰による厳しさは残るものの、ドライバー不足による運賃引き上げも一部で進み、若干緩和していく見込み。普通倉庫の入出庫高も、前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	首都圏からの受託は引き続き堅調も、S E 不足は深刻化
情報サービス	  	(現 況)・全国の売上高は前年をやや上回った模様。ソフト開発が堅調で、好調を持続した情報通信業向けや金融・保険業向けのほか、官公庁向けも回復。県内では、首都圏からの受託案件のほか、卸売・小売業向けなどの案件がみられた。 (見通し)・全国の売上高は、前年をやや上回る見通し。大手金融機関のシステム統合やマイナンバーなどの大型案件で、全般的に需要は堅調とみられる。その恩恵を受け、県内でも引き続き首都圏からの受託案件を見込むが、S E 不足が深刻化して人件費、外注費は上昇する見通し。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	売上高は横ばいも、材料高が心配
外食	  	(現 況)・主要外食店の売上高は、前年をやや下回った模様。7～8月の週末が天候に恵まれず、夏休み期間中の来店客数が伸びなかった。メニューの見直しで客単価は上昇したところが多いものの、採算的には厳しい状況が続いた。 (見通し)・主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見通し。メニュー改定で客単価は上がるものの、来店客数の微減傾向に歯止めをかける決め手はなさそう。天候不順による収穫量の減少や、円安による輸入価格の上昇で、材料価格のさらなる値上がり心配される。

業種	業界天気	紅葉需要はプラスだが、付帯消費は減少懸念
観光・レジャー	  	(現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回った模様。天候には恵まれなかったものの、宿泊予約は堅調だった。一方、海水浴や屋外型観光施設は、天候不順で客足が伸びず、前年を下回ったところが多かった。 (見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年並みで推移する見通し。9月中旬からの冷込みで県内の紅葉は1～2週間早まるとみられ、例年よりも上積みが見込めそう。一方で、可処分所得の減少が続いており、春や夏に比べて宿泊施設や観光施設での付帯消費が減少する懸念が強まっている。

業種	業界天気	幅広い分野で案件登場、前年実績は上回る見通し
リース	  	(現 況)・県内のリース件数・契約高は、企業の設備投資マインドの回復から、前年実績を確保したとみられる。ものづくり補助金が追い風となり機械関連が伸びた。ただし、案件は小口化しており、収益面では厳しさが続いた。 (見通し)・リース件数・契約高ともに、前年水準が低いこともあり、前年の実績は若干上回る見通し。製造業関連が回復していることに加え、介護関連や太陽光関連など小口ながら幅広い案件が出てきている。一方、案件獲得のためのレート競争は激化しており、収益面では厳しさが増すとみられる。

業種	業界天気	年末の需要増に向け、人材の確保が課題に
人材派遣	  	(現 況)・7～9月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+1割ほど上回った模様。とくにIT業務での需要が高く、人材の供給不足が続いた。また、財務や機械操作といった事務系業務の需要が、回復の兆しを見せはじめた。 (見通し)・10～12月の県内の実働派遣労働者数は、前年を上回って推移する見通し。景気回復を受けて人材を求める企業は増加傾向にあり、年末に向けて、営業・販売業務の派遣需要は前年以上に高まるとみられる。ただし、直接雇用の求人も増えており、派遣事業者は人材の確保に苦労するとみられる。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ● 低調 ☁ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	一般生地は前年並み、別珍・コール天は厳しい状況が続く
繊維(半期ベース)	  	(現況)・一般生地の生産量は、ほぼ前年並みで推移した。ただし、端境期を挟んだため、水準自体は低かった。別珍・コール天の生産量は、別珍は一定の引合いがあったものの、コール天は受注不振で、全体では前年を下回ったとみられる。 (見通し)・一般生地の生産量は、前年並みで推移する見込み。オリジナル生地などを手掛けている事業者には、比較的安定した受注が見込めそう。別珍・コール天の生産量は、別珍については一定量は確保しているものの、コール天は先の見通しが立ちにくく、厳しい状況が続く。

業種	業界天気	住宅着工の減少傾向で製材市況は弱含みで推移
製材(半期ベース)	  	(現況)・全国の住宅着工戸数は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動で前年を▲1割ほど下回った。製材品需要は、国産材が5月以降停滞し、価格が▲5%ほど低下したのに対し、輸入材は円安の影響で高止まりした。 (見通し)・全国の住宅着工戸数は、前年を▲1割ほど下回って推移する見通し。製材品需要は、東北での復興需要が見込まれるものの、他地域の需要後退が大きく、低調な荷動きが予想される。市況は、国産材が弱含みで推移するとみられるが、輸入材は為替の影響で、横ばい推移となりそう。

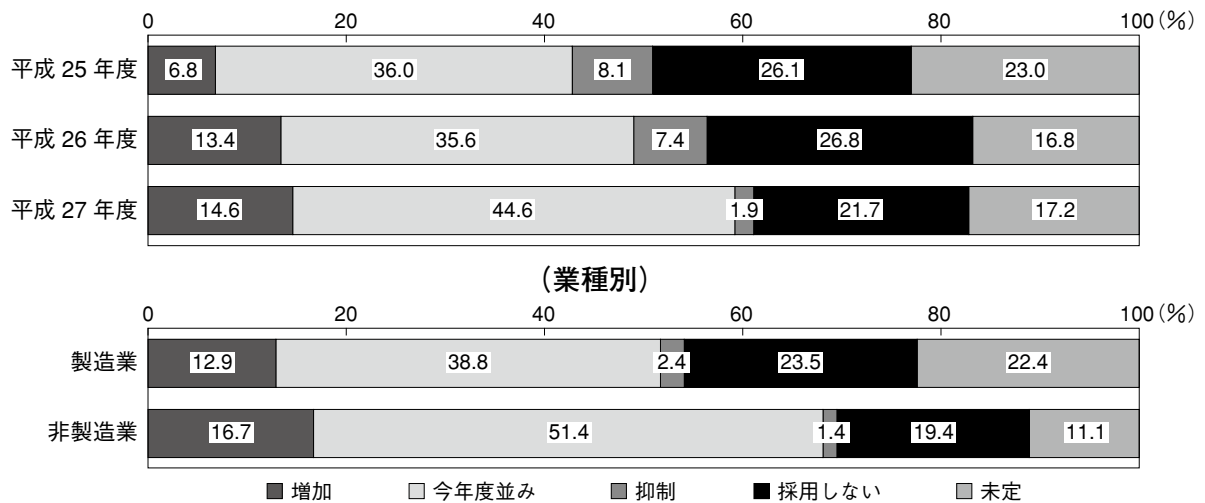
○好調 ○順調 ●普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～9月期、下段が10～3月期

6 割の企業で今年度並み以上の新卒者を採用

平成27年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、「増加」とする企業が今年度より+1.2ポイント増の14.6%、「今年度並み」が同+9.0ポイント増の44.6%となり、合わせて約6割の企業が今年度水準以上の新卒者を採用する予定をたてている。また、「抑制」は同△5.5ポイントの1.9%と減少し、全体的に新卒採用意欲は強まっている。

業種別では、非製造業で「増加」（16.7%）と「今年度並み」（51.4%）を合わせて3分の2を超え、製造業では「増加」（12.9%）と「今年度並み」（38.8%）の合計が5割と、相対的に非製造業で新卒採用意欲が強く出ている。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針



調査要領：調査時点平成26年9月、調査対象企業数309社、回答社数157社、有効回答率50.8%